

野鳥たより

—北海道—

ISSN 0910-2396

第 118 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成11年12月21日

ソリハシセイタカシギ



1997. 12 沖縄県名護 撮影者 戸津 以知子

〒062-0911 札幌市豊平区旭町4-1-14



もくじ

私の探鳥地 (36) 笹流れダム周辺 鈴木 実	2
北海道におけるオシドリの子息状況 1	
藤巻 裕蔵	6
野鳥に取り憑かれた一人 -1999年5月~8月-	
板田 孝弘	8
森田さんを偲んで 井上 公雄	10
-SNOW LETTER FROM WINTER LAND-	
八雲に舞い降りた雪の旅人たち/ヒメハジロとオジロワシ	
富川 徹・中村 茂	11
「野幌森林公園を歩きましょう」に参加して	
芦別野鳥の会	12
野鳥愛護会会員数の推移	12
探鳥会ほうこく	13
探鳥会案内	15
鳥民だより	16

私の探鳥地 (36)

笹流れダム周辺

鈴木 実

笹流れダムの歴史

函館市の水源地「笹流れダム」は、函館駅の東北約8kmの地にあり、市史によれば、日本で最初に上水道が設置されたのは、横浜と函館であるという。

明治21年 (1888) 上水道工事着手

大正12年 (1923) 鉄筋コンクリート扶壁式ダム竣工

昭和60年 (1985) 同上補強改築現在に至る

ダム堤高 25.3m
 湛水面積 76,000m²
 貯水量 576,000m³

水源涵養林は昭和24年 (1949) 針葉樹20万本植栽、平成7年 (1995) 林野庁選定の「水源の森百選」「亀田川水源の森」となっている。ダム堰堤前広場にはソメイヨシノ桜が数十本植樹され、函館市民の憩いの場所として広く利用されています。

① 低区浄水場付近

探鳥地入り口から約800m間の場所で、初春早々左手の針葉樹のてっぺんにマヒワの群が止まっている。コムクドリも浄水場の正面門奥、プラタナスの樹洞に今年も営巣しているのを見てひと安心、シメ、ムクドリの大群が集まる場所でもあり、秋にはヒレンジャク、キレンジャクの群が居ることがあり吃驚したことがある。

樹木は

針葉樹 (トドマツ、イチイ、エゾマツ、カラマツなど)
 広葉樹 (ポプラ、イチヨウ、プラタナス、イタヤカエデ、ソメイヨシノ、エゾヤマザクラなど)

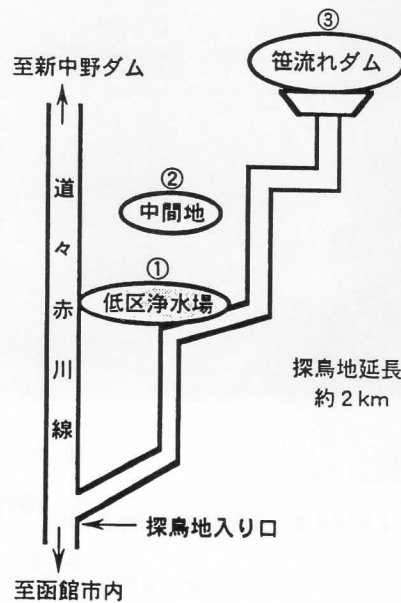
野鳥は

コウライキジ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、ア

リスイ、イワツバメ、モズ、キレンジャク、ヒレンジャク、ノビタキ、ツグミ、ウグイス、オオヨシキリ、マヒワ、イスカ、ウソ、イカル、シメ、コムクドリ、ムクドリ

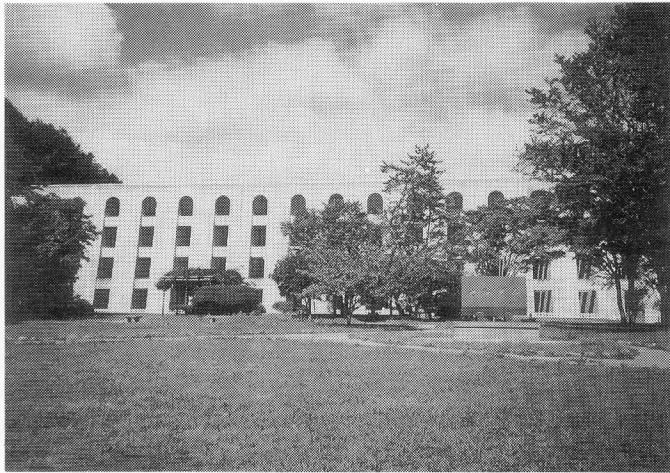
② 中間地

①と②の中間約500m、自然広葉樹の多い場所で、ウグイス、センダイムシクイ、アオジ、ヒヨドリ等の営巣地である。中間地林道からの横道にはカラ類、シマエナ



笹流れダム周辺概略図

が、ムシクイ類が多く見られ、秋にはアトリが多く見られます。たまにアカハラ、アカモズに出会いびっくりすることがあります。中間林道一带にカラ類、アオジが常時見られ、秋にはカシラダカ、ミヤマホオジロがおおく見られる。最近では時々悲しげなアオバトの鳴き声を聞く事がある。平成11年4月11日の探鳥会の途中、突然ハクチョウの鳴き声と共に約100羽程のオオハクチョウが、高度100m位の空中を、編隊を組んで鳴きながら飛んでいるのに出くわした。本州方面からの北帰行と思われるが、この付近ではなかなか見ることのなかった鳥で、感激の一瞬であった。後から聞いた話ではこの鳥の一部がダム湖水で一晩休んでいったとのこと、所用で早く帰り確認できず残念であった。



笹流れダム堰堤正面

樹木は

針葉樹 (トドマツ、エゾマツ、カラマツ)

広葉樹 (イタヤカエデ、ミズナラ、ブナ、ハルニレ、ホオノキ、ドロノキ、ニセアカシア、ヤチダモなど)

野鳥は

カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、ツバメ、イワツバメ、ミソサザイ、ジョウビタキ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾセンニュウ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キクイタダキ、キビタキ、オオルリ、エゾビタキ、コサメビタキ、シマエナガ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、アトリ、イスカ、イカル、ミヤマカケス

③ 笹流れダム付近

中間地から約700m間、ダム公園手前の亀田川 (ダム

水源河川) で一度カワガラスを見ているがそれ以来全く見ていない。9月以降の湖面には色々な水鳥が、羽を休めているのを見ていると時の経つのを忘れてしまう。最近、ヤマセミを時々見かける。湖水の小魚が多くなったせいか・・・。

樹木は

針葉樹 (トドマツ、イチイ、エゾマツ、カラマツなど)

広葉樹 (ポプラ、イチヨウ、クリ、トチノキ、イタヤカエデ、ソメイヨシノ、エゾヤマザクラなど)

野鳥は

カイツブリ、カワウ、アオサギ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ノスリ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、コウライキジ、コチドリ、オオセグロカモメ、アマツバメ、ヤマセミ、カワセミ、クマガラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワガラス、クロツグミ、アカハラ、キクイタダキ、キビタキ、オオルリ、シマエナガ、メジロ、アトリ、イスカ、ウソ、イカル、ミヤマカケス

あとがき

平成6年から観察記録を取っているが、ただ記録しているだけで整理分析はなかなか難しい。それにしてもこの間の環境変化が激しく、さらに来年開学する「公立はこだて未来大学」がすぐ近くに建設され、それに伴って野鳥の飛来がますます減少する事を心配しているところです。

注1. 各探鳥地共通の鳥名は次のものがある。

トビ、キジバト、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラ、ハシブトガラス

注2. 平成11年確認の鳥名は次の通り。

- ① アオバト
- ② オオハクチョウ、アオバト、オオアカゲラ、アカモズ
- ③ ニュウナイスズメ

〒041-0853 函館市中道2丁目5-5

赤川低区浄水場～笹流ダム・野鳥観察記録表(1)

1、2、12月は観察休み ●…確認 ○…鳴き声 ◎…場所

野鳥名	平成8年～平成10年											場所別			記	事	
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	①	②	③					
カイツブリ			●					●	●						◎	8年9/24、10/5	9年5/3、5
カワウ		●													◎	8年4/12、16、22	
アオサギ		●	●		●	●	●	●							◎		
オシドリ		●						●	●	●					◎		
マガモ	●	●						●	●	●					◎		
カルガモ	●	●	●		●	●	●	●	●	●					◎		
コガモ	●	●	●						●	●					◎		
トモエガモ								●	●						◎	8年9/30、10/5、6	10年10/10
オナガガモ		●													◎	8年4/24、25	
ハシビロガモ		●							●						◎	8年4/24、25、10/5	
キンクロハジロ	●	●	●					●	●	●					◎		
トビ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎			
ノスリ							●	●							◎	9年8/19	10年9/29
ハヤブサ		●											●		◎	8年11/23	9年4/10
チゴハヤブサ					●				●						◎	8年7/3、10/10	
キジ(コウライキジ)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎			◎		
クイナ		●	●	●	●	●	●	●	●	●						9年7/3初認	
コチドリ				●			●	●							◎	8年8/29、9/3、4	
オオセグロカモメ		●	●												◎		
キジバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎			
アオバト			○													10年6/18	
カッコウ			●	●	●							◎	◎				
ツツドリ			●	○	○							◎	◎				
ホトトギス			○	●	○							◎	◎				
アマツバメ			●		●									◎	8年5/18、7/4、5	10年8/5、11	
ヤマセミ						●								◎	8年7/26		
カワセミ		●					●	●						◎	8年8/21、9/24	9年4/25	
アリスイ		●	●									◎			8年4/26、5/8	10年5/5	
ヤマゲラ		●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎			
クマゲラ	○	○	○							●				◎			
アカゲラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎			
オオアカゲラ		●					●	●						◎	8年8/3	10年4/7	
コゲラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎			
ツバメ			●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎				
イワツバメ			●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎				
キセキレイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●				◎			
ハクセキレイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●				◎			
セグロセキレイ								●						◎	8年9/21		
ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎			
モズ		●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎					
キレンジャク									●			◎			8年11/8		
ヒレンジャク									●	●		◎			8年10/21、11/3		
カワガラス								●						◎	10年9/5		
ミソサザイ		●												◎	10年4/1		

赤川低区浄水場～笹流ダム・野鳥観察記録表(2)

1、2、12月は観察休み ●…確認 ○…鳴き声 ◎…場所

野鳥名	平成8年～平成10年										場所別			記 事
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	①	②	③		
ジョウビタキ								●			◎			8年10/23、28
ノビタキ			●	●	●						◎			9年以降飛来なし
クロツグミ		●	●	●	●	●					◎	◎		
アカハラ		●	●	●	●	●			●		◎	◎		
ツグミ	●	●	●					●	●		◎			
ヤブサメ		●	●	●	●	●	●				◎			
ウグイス	○	●	●	●	●	●					◎	◎		初鳴き10年3/31
エゾセンニュウ									●		◎			8年10/24、31
オオヨシキリ			○	●	●	●					◎			
コヨシキリ				●										9年6/27
メボソムシクイ			●	●			●				◎			
エゾムシクイ								●			◎			8年8/18、20
センダイムシクイ			●					●			◎			8年5/5 9年8/28
キクイタダキ		●	●				●		●		◎	◎		
キビタキ		●	●	●	●	●	●	●			◎	◎		
オオルリ		●	●	●	●	●	●				◎	◎		
エゾビタキ			●					●			◎			8年5/23、9/21 9年5/5
コサメビタキ		●	●					●			◎			
エナガ(シマエナガ)		●	●	●				●	●	●	◎	◎		
ハシブトガラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	
ヒガラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	
ヤマガラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	
シジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	
ゴジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	
メジロ		●	●	●	●	●		●			◎	◎	◎	
ホオジロ		●	●	●	●			●			◎			
ホオアカ				●							◎			8年6/4、5
カシラダカ			●						●		◎			毎年大群で来る
ミヤマホオジロ		●							●		◎			8年11/3、8 9年4/3 10年11/8
アオジ		●	●	●	●	●	●	●			◎			
アトリ	●	●						●			◎	◎		春先の飛来が多い
カワラヒワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	
マヒワ		●	●						●		◎			8年春の大群以来見ていない
オオマシコ	●										◎			10年3/31
イスカ	●		●				●				◎	◎	◎	
ウソ	●										◎			10年3/26
イカル	●	●	●	●	●	●	●	●			◎	◎	◎	
シメ	●	●	●	●	●	●	●	●			◎	◎	◎	
スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	
コムクドリ		●	●	●	●	●					◎			
ムクドリ			●	●	●	●	●	●			◎			
カケス(ミヤマカケス)	●	●						●	●	●	◎	◎		
ハシボソガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	
ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	◎	◎	

北海道におけるオシドリの生息状況 1

藤 巻 裕 蔵

もう大分前のことになるが、この「野鳥だより」に北海道のオシドリの分布について中間報告として発表したことがある(58号、1984)。このときには自分の観察記録と会員の皆さんから送っていただいた観察記録をもとに1/5万の地形図を1メッシュとする分布図をまとめた。

今回は、その後に得られた観察記録も加え、繁殖期におけるオシドリの生息状況についてまとめてみた。

まず、最初に季節区分について述べておく必要があるだろう。北海道でオシドリは少数が越冬しているが、大部分は夏鳥として渡来する。渡来するのは4月上・中旬で、10月末までには渡去する。この間6月には小さな幼鳥が見られはじめるが、産卵期間と28~30日の抱卵期間を考慮すると、5月上・中旬には産卵が開始されていると考えられる。8月になると、その年生まれの若鳥がほぼ親大の大きさになっていてかなり移動でき、繁殖したとおもわれる地域以外にも飛来するようになる。このような生活の年周期を考慮して、5~7月を繁殖期とし、渡来する4月と8月以降翌年の3月までを非繁殖期とした。さらに、非繁殖期のうち11~2月を越冬期、4、8~10月を移動期とした。今回は繁殖期の生息状況について述べる。

次に分布図の表示法であるが、前回の中間報告と同様にメッシュ法を用いた。ただし、メッシュの大きさは、1/25,000の地形図を田字状に縦横二等分した区画(約5×5kmに相当)で、図にする場合には同じ区画に含まれる記録を一つにまとめた。

用いた資料は、私自身の観察記録、各種の論文・調査報告書や日本野鳥の会各支部の支部報の記録、石橋孝継、磯 清志、梅田邦子、梅本正照、遠藤洋一、長 雄一、川路則友、北山政人、黒沢信道、小杉和樹、小西 敢、小山哲生、佐々木発朗、佐藤幸典、佐藤ひろみ、篠原由紀子、芝野伸策、島田英明、高橋和夫、田辺 至、坪川正己、中川 元、野村悟郎、早川いくこ、樋口孝城、正田英子、松尾武芳、松岡 茂、道場 優、室瀬秋宏、山内 昇、渡邊智子の各氏から提供された観察記録である。

1. 分布

繁殖期にオシドリが観察されたのは、146メッシュである。その分布は平野部から山間部まではほぼ北海道全域にわたっている。生息するメッシュは、石狩平野南部、富良野(東京大学北海道演習林)、十勝川上流部、天塩

川中流部(河跡湖が多い)。クッチャロ湖地域など一部の地域でかたまっているが、広い範囲にわたってまわっているようなことはない。観察が比較的良好に行われているのは、函館とその周辺、石狩平野南部、上川地方南部、十勝・釧路支庁、根室地方南部、網走地方東部で、それ以外の地域、とくに渡島半島、留萌地方、道北地方ではあまり観察が行われていない。そのため、この地域では空白部が多い。しかし、今後調査が進めばさらに観察されるメッシュが多くなると思われる。離島では礼文、利尻、天売、焼尻、奥尻で記録されているが、今のところそれ以外の小さな島では観察記録がない。

垂直分布をみると、標高10m以下の低地から山間部まで生息しているが、これまでに生息が確認されている(クマガエラ古巣に営巣)最も高い地点は然別湖畔の標高820mである。これに次いで十勝川上流部と音更川上流部の標高550m、阿寒湖の標高450mでの記録が高い方である。

2. 生息環境

ここでは、生息環境を海岸、河口、河川、湖沼、人造湖(小規模の砂防ダムを含む)、その他に区分した。生息環境が明らかな観察は、148例あった。最も多かったのが河川で74例(50%)、次いで湖沼が32例(23%)、人造湖25例(17%)、河口部4例(3%)で、海岸はなかった。残りの13例がその他である。その内訳は樹上にいたもの5例、側溝2例、水田3例、融雪や雨で林内や草地にできた一時的な水溜まり3例で、樹上を除くといずれも水と関係のある環境である。樹上にいた例は、近くに営巣木があるか、または営巣に適した場所をさがしていたのかもしれない、まったく無緑の環境ではないだろう。

3. 群れサイズ

観察されたときの個体数と性別が明らかな記録は、5月108例、6月52例、7月18例、計178例であった。これらを、単独雄、単独雌、雌雄2羽、雄だけ2羽以上、雌だけ2羽以上、雄雌の組合せで3羽以上、雌と幼鳥に区分した。

5月には雌雄2羽の例が最も多く61例(56%)。次いで雄単独が25例(23%)で、その他の例は少なかった(表1)。雌雄2羽はつがいと考えられ、繁殖期初めにこのような組合せが多いのは当然といえよう。また、雄単独の例がかなり多いのに対し、雌単独の例は少ない。ま



図1. 北海道におけるオシドリ繁殖期の分布。●はオシドリが観察されたメッシュ、○は観察または調査したが、オシドリが観察されなかったメッシュ。

た2羽以上の場合も雄だけの場合が多い。鳥取県における観察によると年間通して雄：雌＝6：4で雄の方が多。このようなことが、繁殖期に雄単独または雄だけの群れが多いことと関係があると考えられる。

6月になると雌雄2羽が13例(25%)、雄単独が14例(27%)とまだ比較的多くみられるものの、雌と幼鳥からなる家族群が見られるようになり、16例(31%)あった(表1)。6月に雄単独が多くなるのは、雄が家族群から離れることも一因であろう。

7月には家族群が多く8例(44%)で、つがいとおもわれる雌雄2羽の例は見られなくなり、同性2羽以上または雌雄3羽以上の例がその前の月より多くなった。なお、6、7月とも雄と幼鳥という組合せ、または雌と幼鳥に雄が加わっている群れは見られなかった。一般にオシドリでは巣立つと雄は子育てすることはないとされており、上の観察記録もこのことを裏付けている。

これらの結果から、5月はつがい形成から産卵期～抱卵期で、6月におおくの巣で孵化して巣立ち、それに伴いつがいは次第に解消し、雄は家族群から離れることがうかがえる。

4. 繁殖

これまでに確認された営巣例は5例ある。そのうち3

例はクマガエラの古巣(全てトドマツ)、2例は樹種不明の落葉広葉樹の樹洞である。このほか、浦幌町の農耕地で営巣を確認していないが、営巣に適した大木がまったくないような環境を流れる下頃辺川で小さな籬のいる家族群が観察されたことがある。この場合は、多分倒木または大きな石の間などの隙間を巣に利用したことが考えられる。また、5月に雌が学校の煙突に入って死亡した例がある。これも、多分煙突を巣に利用しようとして入ったものと思われる。

産卵または抱卵開始の時期ははっきりしないが、抱卵または巣への出入りの例としては、札幌羊ヶ丘で6月7日抱卵中、富良野山部で5月17日、21日、6月16日に巣

表1 北海道における繁殖期のオシドリの群れサイズ

	5月	6月	7月
	例数(%)	例数(%)	例数(%)
雌雄2羽	61(56)	13(25)	0
雄単独	25(23)	14(27)	2(11)
雌単独	4(4)	4(8)	3(17)
雄2羽以上	8(7)	3(6)	3(17)
雌2羽以上	0	1(2)	1(7)
雌雄3羽以上	11(10)	1(2)	1(7)
雌・幼鳥	0	16(31)	8(44)

に入る、然別湖畔で5月11日～6月6日に巣へ出入り、斜里宇登呂で6月2日巣から出るのが確認された。また、前述の然別湖畔では6月7日に巣立った。これらの事実から、おもに産卵は5月上・中旬、抱卵は5月中旬～6月上旬と推測できる。ただし、7月19日にかなり小さな雛のいる家族群が見られたことがあるので、もっと遅く繁殖を開始するつがいもいると思われる。

巣は発見されているが、巣内を調べた記録がなく、産卵数は不明である。一腹の幼鳥数は、6月には2～15羽で平均6.8羽、7月は2～7羽で平均3.4羽であった。幼鳥数は1か月で半減していることになる。ただし、この平均幼鳥数の値は、幼鳥が全て死亡し雌親だけとなった場合を考慮していないので、実際はもっと低いかもしれない。

5. まとめと問題点

北海道における繁殖期のオシドリの生息状況を、できるだけいろいろな資料を使って明らかにした。得られた結果のうち、雄と雌の割合や雄は子育てに関与しないなどこれまでである程度知られていることの裏付けになったものがあるが、多くは新たにわかったことである。以前私は十勝地方のオシドリの生息状況についてまとめたことがあるが、このときはオシドリは渡来したころには平野部にもいるが、繁殖期には主に山地に生息するとした。しかし、今回の結果をみると、繁殖期でも平野部にかなり生息しており、繁殖もしていると思われる例もあった。このほか、一腹の雛数やその減少状況についてもある程度明らかにできた。だが、観察記録を集めなければ、不十分のままなこともある。分布や生息数がそうである。

渡島半島や道北地方では観察記録が少なく、図にも空白部があり、ここで示した分布図は十分なものとはいえない。今回、多くの方から観察を送っていただいたが、観察地の位置がどのメッシュに入るのかがわからず、位置について問い合わせても回答をいただかず分布図のための資料に使えなかった例がいくつかあり、残念であった。例えば「石狩川下流」という記録をいただいても、河口部から当別あたりまでを下流部とすると、それに相当するメッシュは5つもある。また、生息数の記録は非常に貴重で、これから群れサイズや生活の季節変化が明らかになるが、同時観察ではないので、北海道の総生息数を知ることにはできない。しかし、観察地が増え、全ての観察地で親子連れを数えれば、総繁殖つがい数を知ることができるかもしれない。総生息数は、環境庁や北海道が希少種の選定を行う場合に非常に貴重な基礎資料になるので、将来は全道一斉調査が実施できればと思っている。

今後は繁殖期についてもさらに記録をあつめ、不十分な部分を充実させ、それ以外の時期の生息状況についてもまとめる予定なので、今までと同じように観察記録を送っていただくことをお願いしたい。記録は、出来るだけその場所を地図上で特定できるように詳しく、さらにできれば環境や観察された個体数も記録していただければとおもう。記録が詳しいほど、また多いほど、もっといろいろのことがわかってくるはずである。

最後になったが、観察記録を送っていただいた方々にお礼申し上げます。

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11
帯広畜産大学野生動物管理理学研究室

野鳥に取り憑かれた一人

—1999年5月～8月—

板田孝弘

私がバードウォッチングを始めたのは、今から5年ほど前、何か自然に向かって行きたいと考えて円山動物園主催の探鳥会に出向いた時からです。今、当時のことをかえり見ますと、吹き出すような私の愚かな粗忽な行動でした。探鳥用具を何も持たないで探鳥会に出かけました。その時のリーダーから「用具は？」と聞かれ、「持ってきていません。」と答えた時のリーダーのちょっと困惑した顔。しかたがなく、探鳥会が始まると参加された皆さんの後方を歩き始めました。したがって鳥の姿を良く見ることなどできようはずもなく、数時間とぼとぼ歩くという笑うに笑えない一抔でした。後に探鳥会に参加

する時には用具だけは持参するようになりました。

探鳥会に参加するようになり初めて見た「カワセミ」のあの何と表現していいか、コバルトブルーの姿が目にと焼き付き、それが以来野鳥に取り憑かれた要因です。その後機会あるごとに探鳥会に出るようになりました。多くの機会があるといいかと思ひ、現在3つのサークルに加盟させていただいています。

私は昨年未でビジネス界を離れました。時間が自由に使えるこのチャンスをバードウォッチングに当てるように決め、毎日のごとく探鳥のポイントに向かい、できるだけ鳥と仲良く出会って現在に至っております。今年の

4月中旬には、私が住んでいます真駒内地区の緑町公園内で、珍鳥ヤツガシラに出会いました。最初見た時はカケスかなと思ったのですが、良く見るとヤツガシラでした。手持ちのビデオカメラを持つ手に力が入り、汗が滲んできました。

以下、1999年5月から8月までの私の探鳥記から拾い出してみました。

5月のゴールデンウィーク過ぎに、鳥好きのHさんと一緒に渡り鳥の多い離島の天売・焼尻両島に探鳥旅行に行く機会ができ、数日間楽しむ。島に渡るフェリーの船上で黒い一団のウトウに出会うが、それは海面に黒い帯が浮き、流れているような光景に感じる。天売島に上陸してウォッチングの開始となる。初日の夜、宿のオーナーのサービス案内でウトウのコロニーを見る。鳥の特定の場所にあるコロニー内の無数の巣は大変な驚きだった。暗い海上から羽音なく群れをなしてコロニーに戻ってくる。案内の宿のオーナーの説明によると、自分の巣を絶対にまちがえることはないとのこと。なお、繁殖期には親鳥が口一杯に魚をくわえて巣に戻るが、それをウミネコが待ち伏せ、餌を奪おうとする争奪戦はすさまじい光景だそう。また、親鳥が自分以外の子供に餌の魚を渡すことはまちがっても無く、それもまた不思議な行為とのこと。

さて、鳥をどう探鳥するかを打ち合わせてから、歩いて島を周回する。観音崎展望台、屏風岩、海鳥観察舎と順に足を進める。途中オオジシギの気持の良さそうなパフォーマンスに出会い、地面すれすれの急降下にしばし見とれ酔いしれる。また、低い樹木の枝先のノゴマやノビタキの心地よいコーラスも聞く。特にここで見るノゴマの姿は別の種の鳥かと思われるほど美しく、ただただ感じ入って見てしまう。



ヤツガシラ1999. 4. 13
真駒内緑町公園（ビデオテープから）

次に焼尻島に渡る。ここではHさん共々宿の自転車を借りて島を周回する。会津藩の史跡、オンコ原生林、ウグイス谷、綿羊の放牧場。快晴の中、快適な気分で自転車のペダルを踏み、途中では海上に利尻富士がぼっかり

浮上して見える。見事な雄大な景観をどう説明・表現していいか計り知れない。

なお、両島及び海上での観察鳥は40種ほどでしたが、ここでは省略させていただきます。

6月に入り、また探鳥の旅に出る。野鳥愛好写真家のYさんとの旅で、道東十勝に向かう。十勝川河口でオジロワシの巣に出会うが、子育て中で遠方からの観察となる。同じ管内の音更にある十勝種畜牧場内に自生するカシワの巨古木にハリオアマツバメが巣を造っているとの情報があったので向う。場内一番の古木を探し見て足を運んだところ、古木の周りで目ざすハリオアマツバメの十数羽の飛翔は見られたが、巣の確認はできず帰路につく。

同じ6月の下旬、今度は道北の探鳥となる。今回もYさんと一緒の旅。遠別、金浦のエゾカンゾウの群落。見事な黄色のジュータン敷のような景観。キマユツメナガセキレイが花から花へと乱舞し、手持のビデオを静かに廻す。続いてサロベツ原野の幌延側に車を進めネイチャーセンターへ。原野湿原木道側面のコバイケイソウの白いかれんな花先でのキマユツメナガセキレイのあでやかな舞飛翔を見て、ここでもビデオを廻す。湿原周辺の河川・小沼の観察では、カイツブリ、アカエリカイツブリの遊泳に出会う。天塩川沿岸敷地内ではノゴマ、ノビタキ、シマセンニユウなどに会う。この6月の探鳥の旅は、夢の多い、思い出深いものになった。

7月に入り、根室、釧路、十勝への探鳥の旅に出る。今回は何よりも野鳥好きのMさん、Hさんとの3人となる。厚岸のアヤメ群落を経て浜中町霧多布の湿原へ。ワタスゲやエゾカンゾウなどの中に、北海道のシンボル鳥とも言われるタンチョウのペアの遊歩行を、またノビタキ、オオジュリン、アオジ、ハクセキレイなども確認する。霧多布岬に向かい、現在はこの地だけにしか見かけることができない海鳥エトピリカを海面に探していたところ、M、H両人と、東京からの若い二人のバーダーから「エトピリカがいる！」と歓喜の声があがる。望遠鏡で確認すると、それは何とエトピリカ呼び寄せのデコイとわかり、皆で顔を見合わせ大笑いとなる。

次には十勝豊頃の勇洞沼、長節沼へと車を進める。勇洞沼ではタンチョウの親子連れを至近距離で見ることができ、アオサギの群れにも出会う。さらに中札内村、帯広市近隣と探鳥を進め、中札内村と帯広市の境界のカラマツなどの樹林で、アカハラ、アオジ、カッコウ、アカゲラなどを確認してから、道東の探鳥の旅に別れをつけ帰路につく。

7月下旬から8月にわたっては札幌近隣の探鳥。千歳川のアオバズク、小樽市張碓海岸のアオバトの海水飲み、札幌市内のチゴハヤブサの子育て観察などに向う日が

続く。さらには支笏湖の国民休暇村散策路途中の小池での野鳥たちの水飲み、水浴びの観察にも数回と向う。このうち、チゴハヤブサの子育てには、見る度にどう言葉に出していかかわからないくらいに感動するシーンがたくさんあった。

バードウォッチングに走り廻る日々を送っているうちに身体がリフレッシュされ、文字の読み書きに老眼鏡の助けも必要なくなりました。このような快適な日々を送

れるのは、自然からの恵みとバードウォッチングの効用かと一人悦に入っています。この美しい自然を荒廃させることなく、野鳥を大切に、良い出会いを願い、足腰の自由が続くまでバードウォッチングを楽しんで行きたいと願う一人です。

〒005-0013 札幌市南区真駒内緑町2丁目14-10
チュリス真駒内106

森田さんを偲んで

井上公雄

昨年4月まで広報幹事代表として5年間にわたり「野鳥だより」発行の中心的役割を果たして来られた森田新一郎さんが、去る10月10日がんのためお亡くなりになりました。享年71歳でありました。

森田さんが野鳥愛護会に入会されたのは、記録集「私たちの探鳥会17年の記録」出版記念式（88年7月19日札幌市教育文化会館）が行われるのを新聞で知り参加、この記録集を手にして入会されたと伺っていましたから12年の会員歴になるわけです。

その年の秋から会の探鳥会にも参加されるようになり、野鳥観察の楽しさに魅せられ、以来自宅（知事公館近く）周辺の散策や外出通勤途中目に触れる野鳥にも深い関心と興味示され、お会いしたときには色々話題にされ質問されることも度々でした。

はじめてお会いしたときから、何事にも控えめで誠実温和律儀なお人柄が滲み出て、誰からも好感を持たれる方だとの印象が変わりはありませんでした。

都合の付くかぎり探鳥会にも参加、気の合ったものどうしのグループにも同行するなどして、ご自分の鳥の観察記録の伸びていくのを楽しみながら記録しておられたようで、その記録法は年月日と鳥の名前場所何時何分とその都度メモをとり、後であの鳥は何処で何時何分にと引出し、思い出せないときはメモを調べるなど、如何にも森田さんらしい几帳面な性格の一面を表していました。

そんなことが会の幹事としてお手伝いをお願いすることにつながり、93年から総務幹事になって戴き、翌年広報幹事代表をお願いすることになったのです。

広報幹事代表として「野鳥だより」発行の中心とされてからは、原稿記事の依頼から編集校正割りつけ、寄稿・資料写真提供者への礼状の送付、印刷社との交渉打ち合わせ・資料の整理、鳥情報の取捨、鳥民だよりの執筆、野鳥だより発送時にお預かりした写真や資料の返還

の仕分け、礼状の同封、幹事会への出席など多岐多面にわたって情熱を傾け精力的に活躍され、何事にも誠実に取組まなければ納得できない、実直な性格と責任感を貫かれた方で、広報代表幹事となられてからは「野鳥だより」のことが常に頭の中にあって、幹事会の中でも全員の信頼を集めていました。

探鳥会へ同行のある日車中で、脊椎軟骨の圧迫で手足の痺れ痛みや細かな字が霞むようになって来たので、広報の代表を下りたいと相談を受け、後任の樋口さんと交替して貰うことになりました。

広報代表の肩の荷を下された安堵感からか、5月の鶴川の探鳥会へ同行、車中で検査入院の結果にも因るが、多分手術になると思うので、後暫く休みになる予定とのこと、退院したらまたお願いしたいと言うお話でした。

その後5月30日柳沢前会長さんの追悼集会にも出席され、表面的には変わった様子もなく振る舞っておられましたが、この日が会員の皆様との最後の顔合わせになるうとは、誰が予想したことでしょう。

7月下旬手術、約9か月の療養ののち今年3月末退院、自宅療養を続けていましたが、7月体調を崩され再入院されました。9月下旬お見舞に伺いました折には思いの外お元気で20分ほど話し合い、近い中にまた来るからの再会の約束も果たされず、それが最後のお別れになってしまいました。後でお話を伺いますと亡くなる2-3日前容体が急変したとのこと、どうして上げることも出来なかった虚しさだけが残って、只ご冥福をお祈り申し上げるばかりです。

合 掌

故森田新一郎氏夫人、森田美智子様より、野鳥愛護会に10万円のご寄附がありました。

八雲に舞い降りた雪の旅人たち／ヒメハジロとオジロワシ

富川 徹・中村 茂

渡島管内八雲町にてヒメハジロと白いオジロワシを確認し写真撮影に成功したので、それら観察の概況を報告する。

ヒメハジロ

ヒメハジロは、アラスカ、カナダの北米大陸北部で繁殖し、冬季は太平洋のアリューシャン列島、中部千島、南千島の他、アメリカ合衆国、メキシコなどに渡来する。日本においては希な冬鳥として、岩手県宮古市などで記録がある他、道内では根室、日高、釧路、檜山、十勝、胆振の6支庁管内で記録がある。

本件個体が記録されたのは1999年1月11日の八雲町遊楽部川河口である。観察位置は鷺の巣川との合流部の水門付近で、遊楽部川河口の全域と河口と太平洋を隔てる砂州をほぼ一望できる位置である。この日は、時折晴れ間が覗くもの一日中風雪といった気象状況にあり、河口は半ば以上が結氷していた。砂州との間で形成される開水面には、ホオジロガモ、スズガモなどの群れが100羽程ほぼ限局して観察できた。ヒメハジロはこの群れの中の1羽で、頭部の大白斑の存在、羽色のパターン、幼羽が混じっていない点などから判断して雄の成鳥であると考えられた。

ヒメハジロの行動としては、カモの群中を活発に遊泳して潜水を繰り返す行動（しかし、餌を捕らえた形跡はない）、頭掻き行動及び羽繕い行動（尾脂腺から脂をとり、羽毛に塗布する）などが観察された。なお、活動領域は河口の開水面に概ね限られており、飛翔による水域からの移動は確認されなかった。

この個体は、翌日も同所で観察され写真撮影に成功した。また、翌月の2月16日にも本件個体と思われる雄1羽が砂州外の海域で観察され、越冬の可能性が示唆された。



ヒメハジロ

白いオジロワシ

1999年2月17日、18日、八雲町遊楽部川の上流部の上八雲地域において、オジロワシ白化個体が観察された。地元の人によると、一昨年と同様の個体を周辺付近で見かけているという情報が得られ、本件個体の数年にわたる渡来の可能性も考えられる。

このオジロワシは、嘴峰に黒味が見られないこと、尾羽の大半が白色であること、及び虹彩が黒褐色であることなどから、成鳥に近い年齢にあたる若鳥と考えられた。白化部分はほぼ全体に及んでいるものの、体羽には通常の羽が斑状に見られる他、翼・尾羽にも通常の羽が交じっており、完全白化とは言い難い。



白いオジロワシ

観察中、この個体は河川付近での休息行動が主であり、観察地点から大きくはずれて行動することはなかった。また、その他行動等として他のオジロワシと特に異なる点は見られなかったが、人や車に対しては警戒性を示していた。

〈参考資料〉

- ・清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑 I～III: 講談社
- ・高野伸二. 1982. フィールドガイド日本の野鳥: 342pp. (財)日本野鳥の会
- ・(財)日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会. 1991. 北海道地域別鳥類リスト: 268pp. 野生生物情報センター
- ・森岡照明他. 1995. 図鑑日本のワシタカ類: 628pp. (株)文一総合出版

富川 徹 〒069-0835 江別市文京台南町47-31

中村 茂 〒003-0852 札幌市白石区川北2条

3丁目5-20

「野幌森林公園を歩きましょう」に参加して

芦別野鳥の会

芦別野鳥の会は、地区外研修ならびに見学会を春1回と秋1回の計2回、毎年行っております。平成11年には野幌森林公園探鳥会研修を10月に設定しました。事務局では行動を起こすにあたり情報収集にかかり、初めに北海道ウォッチングガイド10月号を見て北海道野鳥愛護会の行事案内に触れました。早速連絡いたしましたところ、幹事の方から詳細に案内の説明ならびにご助言をいただき、意を強くいたしました次第でございます。心より厚く御礼申し上げます。

さて、10月3日、小雨模様、26名参加、芦別発6時30分、桂沢湖を回って、8時30分に大沢口駐車場到着。愛護会会員の皆様と合流し、そこで幹事の方から「歩きましょう」の説明を受け、9時に行動に入りました。短時間で約4キロ位の道程で、探鳥は勿論のこと、野草の観察まで愛護会会員の皆様の助言などを受け交流させていただきましたことは、私たちの会にとってまた新しい活動記録として残ることでしょう。なお、こちらの時間的な都合により、最後まで愛護会の皆様と一緒できなかったことをお許し下さい。その後、私たちは北海道開拓記念館や北海道開拓の村などを見学し、すべての日程を終えて札幌を発ち、17時30分に芦別に到着いたしました。

芦別野鳥の会を簡単に紹介いたしますと、「会員が、

自然に親しみ、自然を守り、体力づくりに励み、探鳥活動等を通じて野鳥に関する知識を深めると共に、会員相互の親睦を図る」ことを目的とし、野鳥講座等の開催、探鳥会の実施、芦別市が行う探鳥会等の協力などを行っています。現在の会員は個人会員（年会費1,500円）18名、家族会員（年会費2,000円）24名の計42名です。平成11年には5月中の土曜日に5時から7時頃までの早朝探鳥会を5回実施するとともに、旭川市嵐山の北方野草園での研修会、幌加内町朱鞠内湖やルオント温泉の見学会などを行いました。

芦別野鳥の会の課題は、会員の年齢構成問題で、26才から76才の範囲で、平均年齢65.5才となり、リーダーが育たない、活動制限等があるということです。このような背景から、皆様方のご指導を受け、前向きに会の運営に対応したいと思っております。

この度の参加に対し、北海道野鳥愛護会から寄せられました数々の資料とご好意に厚く感謝いたし、お礼のご挨拶いたします。

芦別野鳥の会

会 長	小 塚 賢 治
事務局長	石 岡 清 作
事業部長	福 田 豊

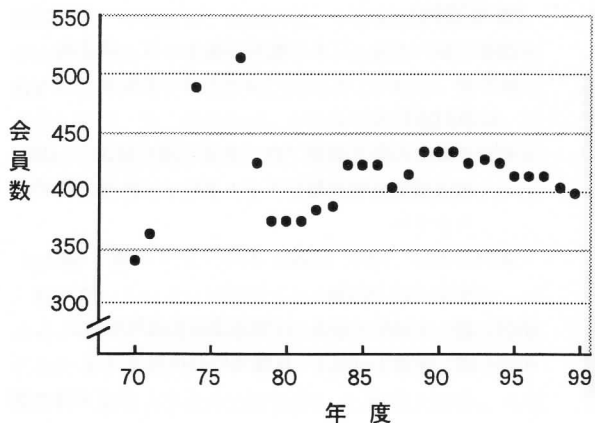
野鳥愛護会会員数の推移

近年、愛護会会員数の漸減が心配されているが、設立以来の会員数の推移をわかる範囲で調べてみた。総会報告において、その年度当初の会員数が明らかに示されているのは1987年度の401名からである。以後1989年度の433名を最高とした後、徐々に減少してきている。1996

年度から家族会員方式も併用することになり、一家族につき2名として数えてみたが、1999年度には396名となり、わずかながら400名を下回っている。

1986年度以前の会員数については、会費収入予算案などからのものであるため正確さに欠けるが、概数的には傾向を把握できるものと思われる。1977年度には517名にもなっているが、この数値は年度予算案の個人会費収入予算 $517 \times 1,000$ （個人会費は1,000円）によるものである。この年度には会員数が700になった場合を想定するとともに、個人会費を600円から1,000円にすることが提案されており、会員の増加が一時著しい傾向にあったことがうかがわれる。

1999年度には新入会員の増加が見込まれ、2000年度当初において400名を下回ることはないと考えられるが、目標ラインの450名に少しでも近づくことを願っている。



代表幹事 白澤 昌彦



鵜川探鳥会に 参加して

1999. 8. 22

片山 實・慶子

2年振りの鵜川でした。札幌から高速日高道を初めて通りましたが、思いのほか早く鵜川駅に到着、間もなく中正、樋口ご夫妻が見えられました。昨年、愛護会に入会させていただきながら初参加の探鳥会でしたが、皆さんとは以前どこかでお会いしているような気がしたのも鳥見好きという共通項からでしょうか。シギ・チドリと云えば、一昨年9月井上、栗林両先輩にコムケ湖をご一緒させていただき親切なご案内とご指導をいただいたことが忘れられません。普段は石狩浜、札幌大橋排泥地等札幌近郊でのシギチ観察ですが、初認の時は歌の文句ではないけれど「お久し振りネ」と思わず口ずさんでいます。

曇り空でしたが、「四季の館」駐車場で幹事さんの説明を受け昼食持参で牧場へ出発、間もなく冬羽のノビタキ雄、ハクセキレイをキャッチ、と程なく“ヒバリシギ”の声があがり急いで行きましたが後の祭り。またオオジシギ、オグロシギを見た方もおられました、これも私には縁がありませんでした。歩くことしばし、牧場の彼方の河辺に辿りつき対岸を観察・・・シギチ、シギチと念じつつプロミナを最大限60倍にして時間をかけたが全く見当たらず、それでもアオサギ、カルガモ、オシドリをキャッチできて先ずは安堵。またオオタカの飛翔を久方振りに可成りゆっくり観察できたことは一つの収穫でした。

昼食の時間がきて、三々五々草の上に腰をおろし、食事をしながら話はずせませんでした。食後、帰路につき牧場内を注視しましたが、牧場にオオジュリンをキャッチしただけでした。駐車場で鳥合わせ後解散、帰りの高速道路では大雨に出くわし探鳥会が天候に恵まれたことに心中ホットする思いでした。

今回はシギチ観察としては残念でしたが、皆さんと交流できたことは幸いだったと思います。探鳥は出会いだと思いますが、会えなければ、それはそれで次の出会いを期待するのもバードウォッチャーの性でしょうか。

それにしても今回の探鳥会は野鳥だより115号の中で山下茂氏が、「鵜川河口は今」で指摘された現状を認識する機会になった様な気がしてなりません。

☎007-0870 札幌市東区伏古10条2丁目15-10

〔記録された鳥〕ダイサギ、アオサギ、トビ、オオタカ、オシドリ、カルガモ、オグロシギ、イソシギ、オオジシギ、ヒバリシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、シロカモメ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、モズ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト

以上 25種

〔参加者〕中正憲佑・弘子、大橋 晃・悌子、信田洋子、佐藤幸典、清水朋子、松原寛直・敏子、北山政人、板田孝弘、犬飼 弘、今泉秀吉、岩崎孝博、野田紘幸、難波茂雄、浪田良三・典子、鈴木繁雄・英子、山田良造、樋口孝城・陽子、片山 實・慶子、村田静穂、森田崇司、井上公雄

以上 28名

〔ネイチャー研究会 in むかわの皆様〕藤谷節子、小山内恵子、山下 茂・かな

〔担当幹事〕佐藤幸典、山下 茂

初めてのシギ・チドリ

1999. 9. 5 島田芳郎・陽子

シギ・チドリに会いたくて鵜川探鳥会に夫婦で初参加しました。初心者二人にとって干潟のシギ達は、まだ見たことのない憧れの鳥達です。

秋の気配はいっこうに感じられないけれど、本当にシギ達は来ているのでしょうか。シベリアの短い夏が終わると、南へ渡る時が来たことを悟り、自らのコンパスを頼りに数千キロを旅する渡り鳥。その驚異的な渡り鳥のメカニズムに想いを馳せながら、鵜川へと向かいました。

河川改修工事の影響で、鵜川河口の干潟はほとんど消失していました。そのせいか期待していたシギ・チドリには会えませんでした。かなり気落ちして帰り支度をしているとき、川面を低く直線的に滑空する鳥が現れ、海岸の流木に止まりました。そのずば抜けたスピードから、私達がまだ出会ったことのない鳥だと直感しました。初めて見るハヤブサでした。やがてハヤブサは海岸沿いに悠然と羽ばたいてゆくと、前方の浜で羽根を休めていたカモメ達(200羽位)が驚いて一斉に舞い上がりました。疲れ果てた旅鳥が鵜川に飛来することをハヤブサは予め知っていて、ここで待ち伏せしているのでしょうか。そういえば、来る途中の牧場で、無惨に食いざられ羽毛(ドバト?)のみ残された採餌跡を見かけていました。あれはきっとハヤブサの仕業に違いありません。ハヤブサのしたたかな野生を垣間見たような気がしました。シギ達には会えませんでした、予期せぬハヤブサとの出会いに感激し、興奮の余韻がしばらく尾を引きました。

鵜川探鳥会終了後、地元の山下さんの案内で入鹿別川河口に直行することになりました。車を止める直前に現

れたのがキアシシギ。さらに、小さな干潟に足を運ぶと、トウネンがせわしく餌を探していました。会員の皆さんのスコープを次々と覗かせて頂いては、アオアシシギ、タカブシギ、ヒバリシギ、エリマキシギとその名を教わりました。ついに、私達は念願のシギ達に出会うことが出来ました。そして、その優美な姿を目の当たりにして、さらにシギ達に魅せられたのでした。

午後の日差しを浴びて干潟のシギ達は輝いていました。それは、今でもはっきりと思い出せるほどの印象的出会いでした。干潟に立ちつくすシギ達と私達との間を、秋の訪れを告げる爽やかな風が駆け抜けていきました。

☎002-8072 札幌市北区あいの里2条6丁目

3-3-806

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、チゴハヤブサ、ハヤブサ、カルガモ、タシギ、シギ大型種不明、シギ小型種不明、ウミネコ、オオセグロカモメ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト

以上 24種

〔参加者〕鷺田善幸、信田洋子、三船喜克・幸子、広木朋子、蒲澤鉄太郎・則子、勝見輝夫・真知子、富川 徹、速藤尹希子、戸津高保・以知子、門村徳男、逸見トモ子、吉田 功・美子、山田良造、清水朋子、大高洋平、島田芳郎・陽子、道川 弘・富美子、栗林宏三、須田、小堀煌治、板田孝弘、井上公雄

以上 29名

〔ネイチャー研究会 in むかわの皆様〕山下 茂、小山内恵子、藤谷節子

以上 3名

〔担当幹事〕富川 徹、山下 茂

宮島沼探鳥会に参加して

1999.10.10 大 高 洋 平

先月9月5日の鶴川探鳥会。双眼鏡やスコープ越しに見えるアオサギやチュウヒ。これが僕にとっての初めての野鳥との出会いであり、今までの生活の中には見られなかった新たな時間のすごし方との出会いでもありました。そして、これらのすばらしい出会いが忘れられず10月10日の宮島沼の探鳥会に家族で参加させていただきました。

早く、またより長い時間野鳥を眺めていたい想いから、この日は集合時間の1時間前にきてしまいました。沼には、ガンやカモといった水辺の鳥が多数きており、はやる気持ちを押さえて僕は双眼鏡をのぞきあることに気がつきました。あまりにも小さいのです。僕の持っている8倍の双眼鏡ではかわいらしく見えるはずの野鳥の姿が黒い塊が動いているようにしか見えないのです。しかし、

野鳥のことなどでいつもお世話になっている道川さんにフィールドスコープをお借りすることにより、まじかに鳥を見ることができ、また会員の方々には、野鳥観察の基本を教えていただいたり、フィールドスコープで鳥を拾ってはそなたびに声をかけていただき、おかげで13種類もの鳥を見ることができ、とても有意義で楽しい時間をすごさせていただきました。どうもありがとうございました。

これからもできる限り参加していきたいと思っておりますので今後ともよろしく願いいたします。

☎061-2273 札幌市南区豊滝442-87

〔記録された鳥〕カイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、トビ、チュウヒ、オオタカ、ノスリ、コハクチョウ、ヒシクイ、マガン、カリガネ、シジュウカラガン、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、キジバト、ツグミ、ハシブトガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス

以上 29種

〔参加者〕橋爪陽子、速藤尹希子、中正憲信・弘子、板田孝弘、村田静穂、蒲澤鉄太郎・則子、栗林宏三、山田良造、小堀煌治、清水朋子、信田洋子、川島恵和子、岩崎孝博、関口健一、佐藤ひろみ、佐藤幸典、成澤里美、大町欽子、戸津高保・以知子、野口正男・キヨ、道川富美子、大高 隆・美知子・洋平、長谷川富昭、星子簾彰、浪田良三・典子、横山加奈子、高栗 勇、広木朋子、須田 節、新城 久、沢井悦子、井上公雄、

芦別野鳥の会=小塚賢治、石岡清作、福田 豊 計3名

以上 41名

〔担当幹事〕長谷川富昭、佐藤ひろみ

野幌森林公園探鳥会に参加して

1999.10.17 西 川 孝 義

探鳥会の数日前に、ある新聞の催し案内記事がでていたのが目に止まり、特別の予定がなければと思心密かに計画をたてておりました。前日の夕刊に札幌地方の予想最高気温5℃となっていたため、気も進まないまま当日を迎えました。朝から冷えこみ、また今季の初雪にもみまわれましたが、現地集合時間9:00とあって思いを決めて出掛けることとしました。実は私自身その気にさせたのは初老の聖域に達し、社会人として仕事以外の視野もなく、ふと、数十年前の少年時代のころ野鳥を飼っていた経験を思い越し、野に、山に鳥を追い求めて走り回ったことが走馬灯のように蘇えてきたのであります。

コガラ、ホオジロ、ベニヒワ等で、当時は、まだ野鳥の捕獲が禁じられていなかった時代でありました。高齢

者となり社会の役割のゴールに近づくにつれ自分を見詰める時間も多くなり、自然に対して関心をもつようになった訳であります。当日参加人数約20名で幹事さんの挨拶のあと森へと進み、さっそく見たり、鳴き声から愛鳥家の皆さんから鳥の名前を次々と告げられ、数種の知識しかない私にとりまして、初めて聞くばかりで、メモ帳に記録するのが精一杯といったところであり、また、双眼鏡を覗くがなかなかレンズの視界に入らず、やっと焦点があったときには、すでに視界から消えてしまって焦る思いでありました。時間の経過と共に気温も下がり気味、さらに雨と雪とが断続的にみまわれ軽装でもあって身の縮まる思いでときを過ぎた次第であります。そんななか昼食30分位いの休憩の時には雲のあい間からの日差しを求めて体を暖めたものです。この度は寒さの思いが強かったようです。話によると毎月探鳥会を実施されているとのことであり、四季折々の野鳥の観察できるよろこびを感じ、何んとか鳴き声で種類を判断できるよう訓練したいものであり、これが可能であればなんとすばらしいことと思います。また、機会があれば再度参加させてもらいたいと考えております。幹事の皆様には色々とお世話になりました。

☎069-0834 江別市文京台東町13番地2

〔記録された鳥〕トビ、コガモ、マガモ、コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ルリビタキ、ツグミ、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、アオジ、アトリ

以上 19種

〔参加者〕岩崎孝博、大賀 浩、後藤義民、富川 徹・優・愛沙、北原英幸、今村三枝子、白澤昌彦、松原寛直、邊見トモ子、西川孝義、戸津高保、樋口孝城、戸嶋裕子、山田良造、村上トヨ、屋代育夫、中正弘子、浪田良三

以上 20名

〔担当幹事〕富川 徹、浪田良三



【藤の沢】 平成12年1月16日(日)

藤野3条2丁目のバス停から徒歩約20分ほど、住宅地の外れの白鳥園がこの日の会場です。室内からバードテーブルに集まる鳥を見ながら、小沢さんのおばあちゃん得意の豚汁をご馳走になり、談笑の一時を過ごす楽しい会です。見られる鳥はコゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ツグミ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、シメ、カケスなどが主ですがキレンジャク、ミヤマホオジロ、コウライキジなどが見られることもあります。

集 合=午前10時 白鳥園(南区藤野693-1)
交 通=定鉄バス(定山溪線)藤野3条2丁目下車
藤野スキー場方向へ徒歩20分
参加費=500円(予定)

【小樽港】 平成12年1月23日(日)

一年を通して最も寒い時期を迎える小樽港では、多くの種類のカモメ類やカモ類を見ることができます。日和山灯台付近からは、アビ、オオハム、アカエリカイツブリ、シノリガモ、ウミアイサ、ウミガラス、ウミスズメなど、祝津漁港ではシロカモメ、ワシカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコなどのカモメ類が主に、色内岸壁ではハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、ホオジロガモ、シノリガモ、ウミアイサ、コオリガモ、築港貯木場ではコガモ、ウミアイサ、シノリガモ、カモメ類などを見ながら貸切りバスで各ポイントを回る楽しい探鳥会になります。寒い時期ですので温かい服装で参加しましょう。

なお申込みが必要ですので予め連絡をお願いします。

集 合=午前9時30分 JR小樽駅改札口付近
参加費=バス代1,000円程度 受付時にお支払い下さい。
申込締切日=平成12年1月16日(日)
申込先=白澤宅 Tel 011-563-5158 18時~20時まで

小樽港の集合時間が10時から9時30分に変更になりました。

【野幌森林公園】 平成12年2月6日(日)

北国の厳しい自然のなかで鳥たちは、逞しく懸命に生きています。留鳥と冬鳥と年間を通して最も種類の少ない時期ですが、コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ヒガラ、キクイタダキなどの留鳥や、ツグミ、ヒレンジャク、キレンジャク、マヒワ、アトリなどの冬鳥のほか、ハイタカ、ウソ、シメなどが観察記録される主な鳥たちです。歩くスキーのコースですので長靴でも歩けます。

集 合=大沢口駐車場 午前9時

【円山公園】 平成12年3月5日(日)

日中の時間も長くなり日差しにも春を感じる季節を迎え、鳥たちの動きも活発になりドラミングや囀りをはじめている鳥もいます。冬には見えなかったカワラヒワもそろそろ姿を見せはじめるころです。冬鳥のキ(ヒ)レンジャク、ツグミ、マヒワ、アトリ、ハギマシコ、の他、この時期良く見かけるウソ、シメと留鳥のキツツキ類、カラ類などがこの日観察記録される主な種類です。

集 合=午前9時 円山公園入口付近
交 通=地下鉄東西線円山公園駅下車、徒歩約3分

【ウトナイ湖】 平成12年3月26日(日)

この時期は温かい南の越冬地で過ごした鳥たちが、北の繁殖地へ移動する渡りのシーズンで、このウトナイ湖にはガン・カモ類の水鳥が渡りの中継地として立ち寄り羽を休めます。マガン、ヒシクイ、オオハクチョウの他ヒドリガモ、ヨシガモ、ハシビロガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサなどのカモ類、オオワシ、オジロワシなど25～30種くらいが記録されます。暖かい服装で参加されることをお勧めします。

集合＝午前9時40分 ウトナイ湖畔駐車場湖畔側
交通＝新千歳空港発道南バス(苫小牧行き)
ウトナイレイクランド前下車

☆交通機関を利用の方は、各自でお確かめください。

☆観察用具、図鑑、筆記具、昼食、雨具などをお持ちください。

☆いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

☆探鳥会の問い合わせは

011-251-5465 自然保護協会事務所まで
(月～金曜日 10:00～16:00) 時間厳守のこと。



鳥民だより

◇新年講演会のご案内

新年講演会を下記の要項で開催いたします。

- ・日時：平成12年1月8日(土) 13:30～
- ・場所：札幌市女性センター
(札幌市中央区大通西19丁目)
- ・講演：「ウトナイ湖の野鳥たち」
ウトナイ湖サンクチュアリーレンジャー
- ・スライド映写
皆さんの持ち寄ったスライドを映写します。皆さんの作品の参加をお待ちしています。
- ・会費：500円の予定です。

◇写真展の作品を募集します

平成12年度も野鳥写真展の開催を予定しています。場所は光映堂フォトギャラリー(札幌市中央区大通西3丁目)の予定です。日時については、次号の「野鳥だより」でお知らせします。奮ってご参加ください。

北海道野鳥愛護会 創立30周年記念誌作成準備中

一写真、イラストなどを募集していますー

北海道野鳥愛護会は来る2000年に迎える創立30周年を記念して、「私たちの探鳥会30年の記録」(仮称)を発行する予定です。現在の幹事さんを中心とした編集委員会を先の8月に発足させ、30年の探鳥会記録の整理・解析を進めているところですが、記念誌の随所に探鳥会風景や鳥の写真、またイラストやスケッチを載せたいと考えています。これらについては会員の皆様から広く募集しますので、1月末日までに下記まで奮ってお寄せ下さい。

送り先：富川 徹

☎069-0835 江別市文京台南町47-31

＝ 会費納入のお願い ＝

平成11年度会費を未納の方は、できるだけお早めに納入下さい。愛護会の健全運営は会費の順調な納入にかかっています。

◆新入会員名簿

(敬称略)

- 大 高 隆・美智子・洋平・良子
☎061-2273 札幌市南区豊滝442-87
- 門 村 徳 男
☎054-0041 勇払郡鶴川町松風町2丁目44番地
- 大 賀 浩
☎004-0014 札幌市厚別区もみじ台北1-5-12
- 横 山 加奈子
☎002-8026 札幌市北区篠路6-5-6-20
- 岸 谷 美恵子・香奈美・皓平・康彦
☎063-0823 札幌市西区発寒3条1丁目1-5
- 坂 口 千 代
☎040-0011 函館市鍛冶2-25-2
- 斎 藤 昌 子
☎064-0924 札幌市中央区南21条西8丁目1-5-302
- 戸 嶋 裕 子
☎061-1434 恵庭市柏陽町1-8-5
- 青 池 道 子
☎064-0944 札幌市中央区円山西町9-4-C3-306
- 吉 田 功
☎061-1123 北広島市朝日町3-8-5

◆住所変更

(敬称略)

- 中 村 茂
☎003-0852 札幌市白石区川北2条3丁目5-20
- 佐 藤 康 雄
☎069-0855 江別市大麻宮町2

[北海道野鳥愛護会]年会費 個人2,000円、家族3,000円(会計年度4月より) 郵便振替 02710-5-18287
☎060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・六階 北海道自然保護協会気付 ☎(011)251-5465